

令和5年11月12日

<佐々木 朗>

渡島管内ボランティア活動研究協議会（渡島地区ボラネット事業）に参加して

（開催要項より）

## 1 趣旨

ボランティア活動は、これまで様々な分野で多岐にわたった活動が各地域で取り組まれています。また、地域共生社会の実現に向けた包括的な支援体制づくりを進めていく上で、地域住民の地域福祉活動への参加促進による新たな地域づくりが進められつつあり、こうした福祉をめぐる新たな動きや地域のニーズの多様化が叫ばれる中、ボランティア活動への期待も高まっています。そこで管内のボランティアが集い、互いの共通理解を深めながらボランティア活動はあり方を共に考えることを目的に 標記研究協議会を開催します。

2 主催 渡島地区ボランティア連絡協議会（渡島管内ボランティア活動研究協議会）

北海道社会福祉協議会渡島地区事務所（渡島地区ボラネット事業）

3 日時 令和5年11月9日（木）13：30～15：20

4 会場 北斗市総合文化センターかなで～る 大会議室

5 参加対象 渡島管内にお住まいで、ボランティア活動をしている、あるいはボランティア活動に興味のある方（中学生以上）

## 6 内容のまとめ

I 団体紹介「渡島のボランティア仲間を知ろう」

渡島管内で活動している4つの団体の紹介があった。

### ①函館マジック 発表者 山崎 紀子氏

昭和46年にマジック用品会社のディーラーとして函館駅前のデパートでマジック用品の販売を手掛けていたことから、顧客らとともに、「函館記述クラブ」を結成し、のちに「マジッククラブ」と改称した。

毎週第3日曜日例会を開き、活動報告やマジックの研究・練習をしている。依頼を受けて、町内会・福祉施設・高齢者施設・幼稚園・保育園などで年間50件程度の活動をしている。活動者の減少（現在9名）があり、

会員増が課題である。11月26日（日）に創立50周年記念発表会を亀田交流プラザで開催するので参観いただきたい。



### ②知内町有償ボランティアの会 村上 義久氏

知内町のボランティアは、湯の里、涌元、

しりうち町内会、森越の5地区で活動している。目的は、高齢者社会における新たな生きがいをづくりと会員それぞれが、今日まで蓄えた経験や技術を生かし、ボランティア活動を通じ、活力ある地域社会づくりにお手伝いすることである。内容として、除雪、排雪、煙突掃除、ペンキ塗り家の修繕、屋根の一般修理、日曜大工の手伝い、網戸修理、庭の手入れ、庭木の雪囲い、庭木の剪定、話し相手、蛍光灯の取り換え、訪問電話などによる安否確認(無料)、困りごと相談への対応(無料)などがある。1時間当たり500円の利用料をいただいている。

### ③木古内町社会福祉協議会有償ボランティア「わんつか」 工藤 嗣美氏

「わんつか」は、「ちょっとした」を語源とする。ボランティアの支え合い活動により、すべての住民が「住み慣れた木古内に住み続けられることを目指している。困りごとがある人(利用者)とお手伝いができる人(ボランティア)のマッチング(結びつけ)をボランティアセンターが行う。謝礼はポイント制とし、ボランティアは10分ごとに150ポイントを受け取ることができる(打ち分けてして、利用者1/3、ボランティアセンター2/3)となっている。ボランティア活動はチラシなどで、PRしている。主な活動として、雪かき、窓の冬囲い、話し相手、草取り、ごみ捨て、衣類補修、家具移動、木の伐採、窓洗いなどがある。

## II「苫小牧市社会福祉協議会 地域のチカラ～だけボラについて～一人一人の笑顔のために～」

苫小牧市社会福祉協議会 千寺丸 洋氏

### ①楽しメール便

コロナにより令和2年にすべての市内のサロンが停止してしまい、楽しメール便という頭の体操になるような冊子を発行した。現在は、町内会、老人クラブ、サロン、個人などで5100部の発行になっている。部数が相当にふえたので、町内化連合会や老人クラブ連合会などからのコピー用紙の提供を受けている

### ②犬猫一時預かり事業

恒例の飼い主がペットがいるために入院を拒み、病気を悪化させてしまうことを懸念し、最大3か月という期間を設けてボランティアに預かってもらう事業。これにより、飼い主の病気の快復、また、ペットの命も救われている。犬を扱った高齢者は、人のために役立つ喜び、そして、ペットを預かる喜びを得たという報告があった。

### ③移送サービス事業

高齢化率が特に進んでいる勇払・樽前地区(いずれも苫小牧市街地より離れている)には、診療所が全くなく、バス時間も通院に向かず、タクシーを余儀なく利用することもあるが経済的な負担が大きい状態にあった。

有料で送迎することは、法令上することができないが、ボランティアが、利用者宅から通信先まで送迎している。車両は、自動車ドライバーが、試乗車をガソリン代を含めて無償で提供してくれている。令和5年では、一日一件以上の移送実績がある。現在、薬についても、商工会職員などのボランティアで町からそれぞれの地区へ運んでもらう試行をしている。

### ④だけボラ事業

「だけボラ」は、「これだけならできるボランティア」、障害や疾病を持っている人を対

象に地域にいる「だけボラ」の人たちに「その部分だけ」手伝ってもらって、利用者の生活をよりよくしていき、支えあっていくことを目的としている。

庭の手入れ、引っ越し、家の方付け、戸の修繕、家事支援、だけボラ農園、小学校交流、庭の草抜き、タンスの搬出、物置の解体、灯油運びなどを行っている。

### ③だけボラ灯油運搬事業

エレベータなしの公住の中層住宅の灯油問題は以前から課題となっていたが、苫小牧東高校アイスホッケー部、軟式野球部が「だけボラ」として協力することになった。現在は、小中学生の学習指導の応援などもおこなっている。

### 感想

渡島管内各町村から、たくさんの方が参加していた。それぞれの地域で、ボランティア活動が進んでいる状況がとてもうれしく感じた。私自身も小さな町を転勤してきたので、小回りの利く良さも知っている。地域から発信していくことも大切なことだと感じた。

研修会の本質とは違うが、マジックの発

表で、3本の長さの違うロープが1本につながったり、何回も破って小さくなった新聞が、開くと一枚に戻っていたり、「目の前だと、絶対にわかる。」と思っていたが、タネがわからなかった。(後日山崎さんとは、文化芸能発表会で再開して、おしゃべりすることができた。)

苫小牧の発表も刺激的だった。事務局の強いリーダーシップを感じた。物事の企画には、思い切った発案も大切であるが、その後の連絡調整も、発案以上に骨の折れるものであることを私もいろんなことをやってきて知っている。冊子の発行も、犬猫預かりも、通院も、灯油運びも、すばらしい実践で、ワクワクしながら話を聞いていた。

「そんなの無理。」と言われればそれで、終わり。「無理と思われることはどうやったら無理でなくなるのかを考えるのが、苦労でもあるが、楽しみにもなってくる。

苫小牧の実践は、渡島のボランティア実践者に多くの示唆を与えるものであり、自分自身もエネルギーをたくさん得たように感じた。何でも参加してみるもんだなあと思った。

令和5年11月12日 佐々木 朗